

第12回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

小論文部門

これからの時代に求められる金融教育

～起業による『金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別
目標」(「年齢層別の金融教育内容」改訂版)』の実践的活用～

徳島県・阿南市立山口小学校 教頭 島村 孝

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2015

1. はじめに

平成 26 年版『子ども・若者白書』¹⁾を紐解くと日本の次世代を担う若者像についての暗い数字が並ぶ。平成 14 年からの 15～34 歳の若年無業者数は、ほぼ 10 年にわたり 60 万人前後で推移し、15～34 歳人口に占める割合も 2 パーセントを超える。フリーター（パート・アルバイトとその希望者）の数も平成 25 年には 182 万人に達し、平成 14 年からの 10 年間は、ほぼ横ばいの 180 万人前後で推移している。もちろん、不況の要因はあるにせよ、近年企業業績が上向き求人倍率が高まる中、当該年齢人口に占める割合は上昇傾向にある。その現実を直視すると、これまでの多忙な教育現場である義務教育で通過（スルー）してしまった金銭・金融教育の理念や事業所体験だけのキャリア教育、高等学校以降の適性の着取りの不十分さなどの課題が山積していることは否めない。

平成 27 年 3 月に、金融広報中央委員会から待望の『金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」（「年齢層別の金融教育内容」改訂版）²⁾（以後「改訂版」と呼称）が発刊された。その冒頭には、金融教育が「お金や金融の様々なはたらきを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」と定義されている。これは現行の「総合的な学習の時間」のめあて「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」³⁾とも親和性が高い。

改訂版の内容は「生活設計・家計管理に関する分野」「金融や経済の仕組みに関する分野」「消費生活・金融トラブル防止に関する分野」「キャリア教育に関する分野」の 4 分野に整理され、さらに 13 に分類されたうえで、38 の分野目標を示し、年齢層別に合致した目標を提案している。この系統分類は、金融教育を発達段階に応じて教師が意識し進めるための実用的な手引きとなっている。

筆者は、足かけ 13 年間にわたり金銭・金融教育に取り組んできた。今回、改訂版の発刊を受け、その有効な活用について実践してきた経験からの提言を行いたい。

2. 金融・金銭教育の履歴一覧

①平成 14 年度・・・ K 小学校	○山奥の小規模校で 5・6 年生 6 名が S 百貨店の催事コーナーで全国初の「北海道物産展」で特産物の販売を行う。その経験から、「いしだて祭り」を創設し、地域の物産を販売する。
②平成 15 年度・・・ H 小学校	○那賀川の最奥部にある小学校と交流を行い、水環境を守る視点から家庭からの廃油を再生した石けんを道の駅で販売。バーコード認証された商品となり、以降継続販売の常設店舗に育つ。その利益から上流にブナの苗木を植え、広葉樹の森を作る。（資料 1、2）
③平成 16 年度・・・ H 小学校	○大豆を巡る学習で食の領域を開拓し、豆腐づくりからおからクッキーを開発。それを持参して介護老人ホームを訪問。その後豆腐工場から出た廃棄物のおからを追跡し、それを飼料にした養殖アワビを工場から送付してもらい、アワビを学年全員で試食し養殖の優位点について考える。
④平成 17 年度・・・ H 小学校	○全国のおみやげについて調査し、地域の特産品調べから学校のバザーで生八ツ橋を製造販売。開店時には 40 メートルの行列ができるなどイベントは盛り上がる。地元の衰退する水産業を復活させるためワカメの養殖を行い、700kg 販売する。
⑤平成 18 年度・・・ H 小学校	○校区に出没したアゴヒゲアザラシのナカちゃんの生態を調べる中で、その死を永遠に語り継ぐための CD を自主制作。全国のメディアに注目される中、約 600 枚を販売し、学校内に歌詞を刻んだ巨大な歌碑を建立する。
⑥平成 19 年度・・・ H 小学校	○校区に居を構えた足利氏の末裔、平島公方について国民文化祭を契機に調べ、その知識を生かした知的なイベントである「平島公方検定」というご当地検定を実施。地元商工会とタイアップし、成績上位者には、お米・イチゴなど地元の特産物を贈る。

⑦平成 20 年度・・・ H 小学校	○耐震工事で出た廃材を活用して研修室に栽培棚を作り、徳島県が全国一の出荷額を誇る菌床椎茸を予約販売。冬期に気温が下がる中、加温設備のない校内で長期にわたり収穫を上げ続けることがメディアに注目される。(資料 3、4、5)
⑧平成 21 年度・・・ H 小学校	○好評だった、前年の菌床栽培を発展させ、専用棚を増設し、収穫量を増やす努力を行う。生産量の推移や収穫時期について、子どもたちが予想しながら長期的な販売計画を立てる。
⑨平成 26 年度・・・ Y 小学校	○水を巡る学習の中で、小規模複式学年でワカメ養殖と販売に取り組み、手作りの 3 店舗で同時販売を行う。2 時間弱で約 15 万円を売り上げ、地元公民館の会議室に電波式の掛け時計を 5 個寄贈し、地域の住民から感謝される。
△スーパーバイザー としての関わり	△四国霊場開創 1200 年を記念して、年間 10 万人を超えるお遍路さんに、ガラス細工を札所で委託販売。販売益で海外から訪れるお遍路さんのために、4 カ国語で刻まれた御影石の道標を立てる。

3. 金銭・金融教育の提案

金銭・金融教育により、社会に出ても通用する金銭感覚を育てるため、小学校段階での起業活動を伴う授業を必修とする。

4. 起業による教育的効果の検証～優位点と効果について～

(1) 事業計画の作成による活動継続の効果

自分の住む地域を客観的に見つめ特産物や商品を販売する事業計画を立てるには、楽観的な推測は排除される。調べたり相談したりすることが限界の教科と違い、総合的な学習の時間では、販売することが前提となる。そのため事業計画では、何を何時までに何個(何袋)作って、売り上げはいくらになるから借入金(返せる)を何時返す(返せる)ことができるといった具体的な数字を積算しなければならない。当然借入れを伴う第三者(小学校の場合は学校長)へは、出資金を募る時以上に、返済時も説明責任を果たす義務も負う。これは、他の学習では味わえないことである。起業することで全員が見通しを持って考える学習領域は、さまざまな金銭的な内容を包含している。絵に描いた餅でない具体的な事業計画は、会社運営の青写真として相互に共有され、目標を一つにしながらかつ継続する根拠となり得る。

(2) 出資と自己責任でお金と対峙することによる効果

大切なお金で影響を受けるのは、それが失われる場面と増える場面である。低学年では、おこづかい帳でお金の管理や買い物での生活体験の反省、高学年でも家庭科での週単位支出調査などお金にまつわる学習も意識されるようになってきた。しかし、高校生段階になっての株での資金運用や投資のシミュレーションの授業でも所詮は疑似体験である。

それに対し自分たちが出資したお金で、材料(原料・苗・種等)を購入し、それが製品(商品)に姿を変え、売り上げが自分たちの命運を握るとなると切迫感の度合いが完全に違ってくる。自己責任で、お金が回収不能となるリスクも負わなければならない学習は、クーラーの効いた涼しい教室で画面を見ながら入力し、ワークシートを書く学習とは別世界。厳しいようだが、個人の結果の受け入れ方という学習の価値で考えると心の揺れは実際の会社運営に遠く及ばない。全員参加のスタンスが、成功時の歓喜と共に身を滅ぼす(会社の倒産)ことも直結しており、疑似体験の何百倍も記憶に刻まれる学習になる。

(3) 共同運営によるコミュニケーション能力の育成や人間関係の改善による効果

授業には必ず教育目標があり、基本的にその達成具合で評価される。筆者は、長年画一的な指導になじまず不適応を起こしたり、やりがいの持てない学習の場で苦しむ子どもを数々目撃してきた。『子ども・若者白書』に例を求めなくても、大半の教師には記憶がある事象であろう。子どもに限らず人には特性(個性)があり、それを最大限に発揮するため、筆者は起業の際、営業部・宣伝部・製造部の編成をとる。落ち着きがなくても、社会的で交渉力のある子は営業部員として校外で活躍するし、おとなしくて目立たない子も丁寧な作業で、決して不良品を出さない安定した仕事で評価され、誰も

が気がつかないアイデアやチラシの製作が得意な子は宣伝部で活躍する。それも、全て起業した会社という母体があって生まれるものである。そして、全員が自分の持ち場でがんばっている姿というのはまさしく活性化した学級そのものである。三つの事業部に編成前の受け身がちで友だちを自分の価値観でしか見ようとしない子が、それぞれ自分のよさを発揮できる場所を見つけ、友だちのよさに気づき、再評価し、それが学級や学年のバインドを強めて仲間意識の醸成と集団の大きなエネルギーになっていくことで人間関係は著しく改善する。

顕著な例では、前年には年間109日欠席をした児童が、起業の中で製造部長に選ばれ、その年には欠席が0になったばかりか、追跡調査によると高校3年間を皆勤。生徒会役員として学校を束ねるようになった事例も生まれた。

(4) さまざまな状況の変化へ修正できる思考力・判断力・表現力の効果

会社運営は基本、PDCAを基本とするが、その前段階のR（リサーチ）が不十分な場合は、なるべく多くの情報を集め、それを分析し、最良の判断をしなければならない。初めて菌床椎茸の養殖と販売を行った時（⑦ H 20）では、椎茸のサイズにばらつきがあり、たくさん収穫できる期間とそうでない休眠時で収穫量にばらつきが生まれることがあった。もちろん椎茸の規格も揃わない。

その時、子どもたちは他の学習に見られないような動きを見せた。休みの日に地元スーパーや道の駅など6カ所で価格調査をし、休み明けの放課後の教室に自主的に集まり、持ち寄った情報を話し合ったのだ。

「中国産は安いけど、消費者は安全性から安くても選ばない。」「椎茸がいろいろな大きさになっても、学校の生活時間で選別する時間がないので無選別で詰めたら。」「最初は、多く詰めないで、少なめで買ってくれた人の感想で量を変えよう。」「一度にできて、すぐに売り切らなければならないなら、予約してもらって整理券を配ろう。」「学校の前の肉屋さんに置いてもらおう。」「

最終結論は、まず他学年に予約販売の整理券を配ったうえで、校長先生に学校便りで知らせてほしいと依頼し、校門付近の無人販売が検討された。しかし、これは安全面と補充の手間、さらに集金者に負担がかかりすぎるということで却下となった。

全国初の就労体験でS百貨店の物産展を見学した時（① H 14）は、年度末に自分たちの出店を控えていたため、商品の陳列、店舗配置、お買い上げ特典など、単なる見学ではない動きが見られた。自分たちが行うバザーを想定し、獲得していた思考力・判断力・表現力は、多くのデータからよりよい店舗展開へ結集することになった。当日、子どもたちは、会場となる体育館の様子を注視し、「2カ所以上で買い物をしたら粗品を贈呈」「粗品の引き替え場所はいちばん奥の店舗の6年生の横」「どこから来たか、何で知ったかをアンケートに書いてもらう」というように来店客の迎撃態勢を整えていた。また、イベント後の顧客情報は細かく分析され、翌年からの同じ行事の実施に生かされることになった。

(5) 予算配分と配当の分配を通して親子の会話が生まれる効果

起業＝株式会社運営のいちばんの喜びは、企業活動（生産や販売を友だちと協力して行い地域に認知された学習）が順調で、富を分配する時である。その用途を巡っては、①校内の他の学年に、②お世話になった人に、③地域社会にという分類で、毎回子ども自身に予算を立てさせるようにしている。

子どもたちは、どこへ・どのぐらいの値段のものを買う、あるいは贈るといううれしい難問を真剣に話し合い、時にはとんでもなく熱を帯びることになる。しかし、そのことでお金に対しての品格が身についていく。全ての予算を確実に執行し、ゲストティーチャーなどへの感謝の会を終えると、最後のまとめは一人ひとりの配当の分配である。保護者に向けては、フリーの記述用紙を配布し、1年間の金銭・金融教育の取り組みの意見をもらうことにしている（資料参照）。

そこでは、稼いだお金をどう使うかという基本的なこと以外に、親が初めてアルバイトをした時に何を買ったかや、欲しかったけど手に入られなかった思い出などが話し合われることになり、お金の大切さが再確認される。この家庭と学校とをつないだ意見交換は、実際に各自が出資した会社運営がなければ踏み込めない領域であり、そこでの「ふりかえり」は、親のお金に関する経験を子どもたちに伝えるすばらしい機会となっていく。

(6) 社会貢献による自己肯定感・地域創生の効果

ワカメ養殖事業（④ H17）では、価格の低迷で見捨てられていた海面を有効利用したことでUターン漁業者が続出し、地域も活性化。他産地の偽装事件もあり、おいしく安全なワカメとして東日本大震災が発生した時にも大きな生産を担い、小学生が起こした地域創生の具体例と注目されることになった。

ガラス細工を100個近く販売し、四国遍路のために4カ国語で刻まれた校区の遍路小屋近くに道標を寄贈した際（⑨

H 26) でも、地域からは歩き遍路の迷う人が激減したという声やアメリカ・シアトルから国際郵便で感謝の手紙が届いたりした。こうした反響は、子どもたちに自然と自己肯定感を育む土壌となっていく。

5. 結論

今回の改訂版の趣旨を生かすため、筆者は改めて提言する。はっきりと見えてくるのは従来の延長線上にある分岐・分散型の金銭教育ではない、子どもたちの記憶と記録に残る起業による会社運営を母体とした系統的な授業展開の必要性である。

私見になるが、今までの学校現場の金銭・金融教育は、ややもすると社会という海面に、いつかは投入した捨て石が姿を見せただろうと信じ、行われてきた大がかりな土木工事のようにも思える。海図もノウハウも乏しい状況で、潮の流れも読めないままに膨大な時間を投入しながら、将来の賢明な消費者となる知識と経験は軽く扱われ個別撃破されたのではないか。さらに、具体物の存在しない疑似体験が傷口を広げることになった。つまり、やっていないのではなく、やったことが見えない。実らない。

そこで、生きて働く金銭活用能力（※筆者の造語）を身につけるための総合的な学習の時間を核とした起業とは何か。それは、起業によりどんな波浪にもびくともしない消波ブロックを組み上げることである。

一個の消波ブロックは、波の前には無力である、ただし内容を関連づけながらさまざまな学習領域のヒト・モノ・コトに触手を伸ばしながら組み上がった集合体は子どもたちの学習の記憶の中で、どんな波浪にも微動だにしない強固な構造物になる。そして確かな経験からは生きた知恵が生まれる。やがて時間の経過と共に、そこには海草が繁茂し稚魚が群れるような水域となって、派生的な何かも生まれるはずである。

かつての教え子と時折、街の量販店やスーパーで再会することがある。驚くほど大人になった彼らは、決まって駆け寄ると必ず筆者に満面の笑みで語りかける。

「僕は、ワカメを売ったよね。」「私たちは、CDで稼いで車椅子を3台寄付したよ。」「あのときにももらったお金で〇〇できた。」「引っ込み思案だった私は、あの時から変身した。」と。

今、学校現場では都道府県ごとの全国学力テストの順位が大きな関心を集め、既存の学習内容でさえ週5日制の中で授業時間が不足すると言われる。そんな時代に、金銭教育が埋没しないためにも、起業での鮮明で具体的な学習を構築していかなければならない。

変化の激しい社会の荒波に、目の前の子どもたちが疑似体験や教科ごとの分散的な金銭教育でしか身につけられなかった柔な鎧で立ち向かうことがないようにするためにも。

注1) 内閣府 平成26年版『子ども・若者白書』

URL http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/pdf_index.html

注2) 金融広報中央委員会 『金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」(「年齢層別の金融教育内容」改訂版)』 平成27年3月

URL <http://www.shiruporuto.jp/teach/school/mokuhyo/>

注3) 文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成20年3月

URL http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/sougou.htm

資料1 保護者と連携したふりかえり①

保護者の皆様へ

平成15年11月 5日

5年●組 [Redacted]

5年●組 [Redacted]

5年●組 [Redacted]

5年生 総合的な学習の時間への保護者の声募集について

平素は(株)ピュア アースへのご支援並びに、ご協力大変お世話になっております。さて、4月より始めました「環境を水から考える」総合的な学習の時間もいよいよ大詰めにあつてまいりました。販売から、地域の環境を守るというリサイクル石けんの販売も予想を超える反響で3回共に、とぶような売れ行きでした。しかし、それに甘えることなく学習のふり返しをするために、また客観的に自分たちの足どりを見つめるためにも、今回ぜひ、保護者の皆様のご感想やご意見を頂きたいと思っております。どんなことからでもけっこうです。気楽に・・・気ままに・・・そして思いつくことから何なりとお書きください。よろしく願いいたします。

(感想・意見の場がこのようなのに、夜、先生のお宅まで) お電話をしてお詫言申し訳ありませんでした。
五年生の環境に対する学習として、(株)ピュアアースをたのませて、石けんの販売も大成功をいたしました。この環境を考えた、学習の中から何かを作りあげていくことはとても大切で良いことなので、これからは一度は終わらす、ずっと続けたいと願っています。大成功をした石けん作りもまた同じように、前回はアイディアを出してロウソクも同じ廃油からできるものなので、今度作るのであれば、石けん半分、ロウソク半分などにしたらいかかでしょうか。(それには又、ロウソク作りも実験があればいいですね。)

5年●組 保護者名 [Redacted]

※用紙が足りないときは、裏面をお使いください。 ありがとうございます。

身の周りの環境に対する素材はたくさんあると思います。ビオトープでもそうだし、米ぬかから肥料を作ったり(これもぬかに廃油を混ぜて、肥料を作ろうです。*米ぬかたんじょうです。)考えると身近にたくさんあると思います。みんなアイディアを出して、年々、ずっと続けたいと思います。

資料2 保護者と連携したふりかえり②

保護者の皆様へ

平成15年11月 5日

5年●組

5年●組

5年●組

5年生 総合的な学習の時間への保護者の声募集について

平素は(株)ピュア アースへのご支援並びに、ご協力大変お世話になっております。さて、4月より始めました「環境を水から考える」総合的な学習の時間もいよいよ大詰めにさしかかってまいりました。販売から、地域の環境を守るというリサイクル石けんの販売も予想を超える反響で3回共に、とぶような売れ行きでした。しかし、それに甘えることなく学習のふり返しをするために、また客観的に自分たちの足どりを見つめるためにも、今回ぜひ、保護者の皆様のご感想やご意見を頂きたいと思っております。どんなことからでもけっこうです。気楽に・・・気ままに・・・そして思いつくことから何なりとお書きください。よろしくお願いいたします。

今回の総合学習を通じて、息子が大きく成長する姿が見えました。以前の息子は周りの出来事(雑事)をあまりしゃべりませんでした。分かっているがしゃべらない、というのではなく、周りで何か起きているのか何も把握できていない、という状況でした。総合学習については、帰宅して学校での作業の様子、自分が実行したことを具体的に語ってくれ、果ては道の駅でのおじいさん、おばあさんたちのもち拾いの様子を面白可笑しく話してくれました。話が前後しますが、一日参観日では、私のおなかの調子が悪く家から出たらやばい!状態でしたので欠席させていただきました。そのことについて息子(本音)本当に残念がっていましたか?石けんの売れ行きに感激した様子で、行きなかつた私は、チラシを見せながら得意気でした。

5年●組 保護者名

※用紙が足りないときは、裏面をお使いください。

ありがとうございました。

先生方が子供達にきちんと役割を与えてくれたお陰でみんなが興味を持って責任を果たせたのでプロジェクトが成功したのだと思っております。本当に思いつくままに書かせて頂きました。ありがとうございました。

資料3 保護者と連携したふりかえり③

親と子の金銭教育報告書

(1) 500円のことで、子どもさんとどんな話をされましたか。

お金の価値と物事の大きさや、自分の手元にお金の量が減ることで物しれしれと

(2) この500円をどう使う(予定でもよい)ことになりそうですか。

子供がおこづかいにするの...、500円を元金におやつPartyをする...
時間不足の為、お話しできてません。

(3) 今年度の4年生の学習や今回のことへの感想をお願いします。

金銭金融教育を通じて、金銭勉強だけでなく、自分磨き考えて、意見をまとめて、話しあって、実行するという生活社会勉強もできたのではないかと感じます。それと同時に一時間という長い時間で同じ事を学ばせたり発展させたりするのは素晴らしいと思います。金銭金融教育の中は国語(相手へ伝える言葉や敬語を学べり)、算数(お計算、計算、ひき算、わり算などの日常でよく使う計算)、理科(水の、しるしの栽培方法や日なた日陰、日照温度など)、社会(生産者、販売、農業、地域の人達とのやり取り)がまとめて勉強できると、子供も楽しく勉強できると良いと思います。大塚のインソールの学習も、色んな案を出してきて子供も提案する、考えが、案に身に付いたと思います。今回の4年生の学習は、社会へ出て行くに役立つと思える国語、算数、理科、社会の勉強も必要です。この子や今回の学習は学校じゃなくして家で学習するの、本当は良かったと思います。この教員学習を、毎週続けたいれば、生徒は社会人になれるのではないかと、一時間、素晴らしい学習をしていける事を、私達は感謝しております。有難うございました。

出資金と配当金 200円+100円=300円 確かに受け取りました。受領 <input checked="" type="radio"/>	ご家庭でお使いいただくお金 500円 確かに受け取りました 受領 <input checked="" type="radio"/>
---	---

資料4 保護者と連携したふりかえり④

親と子の金銭教育報告書

(1) 500円のこと、子どもさんとどんな話をされましたか。

500円を稼いだ事は、どうだったか？と聞くと、「うれい〜」でも大変だったよ〜と答えてくれた。何が一番大変だった？と聞くと、7カ月前に収穫の時だったよ。お金を稼ぐという事は、みんな一生懸命働いて結果、お金の入るものだよ。だから、稼いだお金使える物でも飽きずに捨てない。でも、大切に使うよ。と話した。物を買う時、自分が普段使っている物と同じように…と話した。

(2) この500円をどう使う(予定でもよい)ことになりそうですか。

母。500円は、ママが使ったね。300円は、11月仕事が入っているママに大好物のケーキを買ってプレゼントしたいと言われ、お祝いしようかな。でも、みんなお祝いも、勉強も本当に良くがんばっているから、みんなにケーキを買って食べよう！という話になりました。みんなでケーキ屋さんへ行き、好きなケーキを買って、みんなで食べました。これは、「ママの稼いだお金で買った」といって、うれしそうに食べていました。

(3) 今年度の4年生の学習や今回のことへの感想をお願いします。

いろんな事を初体験できて、本当に良かったと思っています。
 仕事(商売)がどんなに大変なのか？という話が少しでも命かけて稼ぐたか？と思っています。
 販売するための課程(育てる、作る、分担、協力する)など、みんな簡単にできる。みんな協力して成功した喜びは、子供達にとって、社会への第一歩をふみ出した感じがしています。味方か、この初体験学習に期待しています。

出資金と配当金 200円+100円=300円 確かに受け取りました。受領 <input checked="" type="checkbox"/>	ご家庭でお使いいただくお金 500円 確かに受け取りました 受領 <input checked="" type="checkbox"/>
--	--

資料5 保護者と連携したふりかえり⑤

親と子の金銭教育報告書

(1) 500円のことで、子どもさんとどんな話をされましたか。

500円の配当金があったことは、すごいことだし、株式会社の利益の中から、みんなのために役に立ってもらうと、車椅子や電卓時計の寄付、骨髄バンクへの寄付は、このすばらしいことについて話し合いました。私、このように思い出に残る活動ができたのは、協力してくれたい方、支えてくれた方がいたからで、その方々を招いての感謝の集いの意義についても話し合いました。お世話になった竹田さんは、どのお気持ちで「いや」をみんなにくれたのかと、いよびを考えました。
(感謝の集いの後)

(2) この500円をどう使う(予定でもよい)ことになりそうですか。

子どもからは、この不景気のなか、給料も減っているし、いつも家族のために働いてくれているお父さん、お母さんへ500円で手紙を渡されました。とてもうれしかったです。私、子どももいろいろ考えているなあと思って実感しました。兄もふくめ、家族4人でおかしな食べ物がら、いろいろ話したり、困ることがあったら、500円で家族の好きなスタンプがしやおかしなものを買おうと計画しています。

(3) 今年度の4年生の学習や今回のことへの感想をお願いします。

株式会社を設立して、利益をあげようということだけでなく、活動を通して、いろいろ自分たちでつくっていくこと、そのなかでは「気持ち」が通らなければならないことが大切であるということを手紙を書くに思案! 総合的な学習の時間での活動の様子、人權学習(江戸姓との交流)によって家で話してくれました。道の駅のカフェでも家族で見に来ました。学校での活動が家族での話題にもなり、ありがたく思っています。

出資金と配当金 200円 + 100円 = 300円 確かに受け取りました。受領 ●	ご家庭でお使いいただくお金 500円 確かに受け取りました 受領 ●
--	--